

都市農業魅力発掘プロジェクト
—東武トップツアーズ株式会社／JA東京中央会—

都市農業の魅力発信 実施報告書



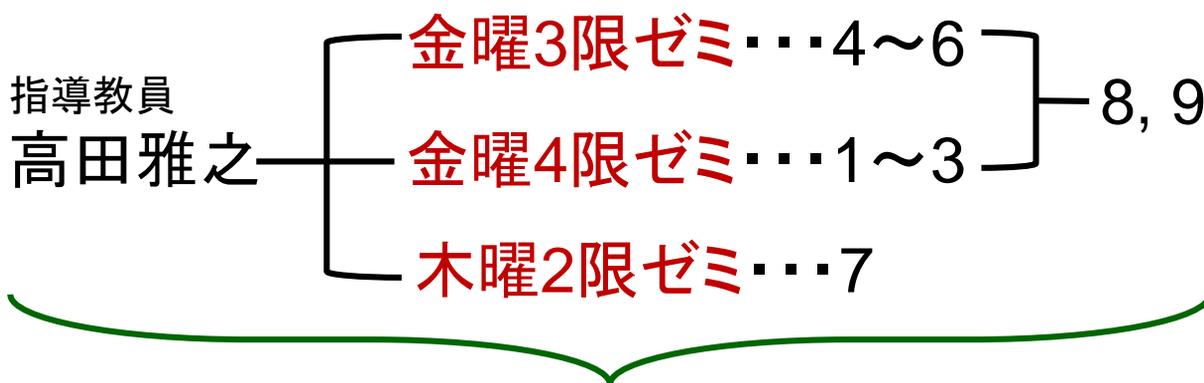
2023年2月

法政大学人間環境学部 高田ゼミ

8つのプロジェクト

1. キッチンカー
2. 都市農ボランティア
3. メニュー考案大会
4. アクアポニックス
5. ポップアップイベント
「感じる都市農業」
6. 雑誌づくり
7. 散策マップづくり
8. 成果展示atスカイツリー
9. 学生の感想

実施体制



東武トップツアーズ株式会社・
JA東京中央会とコラボレーション

1. キッチンカー

① イベント名

『東京味わいフェスタ2022 TASTE of TOKYO』
(イベントに出展という形で参加)

② 実施日時

2022年10月28日(金)～10月30日(日) 9:30～18:00
準備:9月22日(木)にスムージー考案のための打ち合わせ

③ 場所

丸の内仲通り丸の内ビルディング下(歩行者天国の道路に出展)
準備打ち合わせ:東京都江東区毛利2-8-7 レンタルスペース

④ 協力者・機関

JA東京中央会、株式会社STORY、東武トップツアーズ

⑤ 実施概要

- ・東京駅前丸の内仲通りで行われた『東京味わいフェスタ』の出展団体の1つとしてキッチンカーを3日間出した。既に決まっていた3種のスムージーに加え、学生が考案した「かぼちゃのポタージュ」の計4種を販売した。
- ・カップに貼るロゴと当たりつきラベルを自分たちで考え、QRコードを読み取ってもらい、当たった場合はJA東京中央会の江戸東京野菜エコバックを差し上げるアトラクションを実施した。
- ・予想以上に好評で、終了時刻の18時前に売り切れ終了となることもあった。

⑥ 来場者数

3日間で600杯以上を売り上げ、2人組で1杯購入された方や購入しなくてもキッチンカーに興味を持ってくれた方もいい、600人を大きく上回る方に来場していただいた。

⑦ ゼミ生活動

- ・当日カップに貼って使用するロゴ及び当たり付ラベルの考案と作成
- ・当日は26人でシフトを組んで、主にスムージー作りと接客を行った

⑧ 使用した野菜

明日葉、ごせき晩生小松菜、キウイ「東京ゴールド」、馬込三寸ニンジン、禅寺丸柿、亀戸ダイコン、新高「稲城の梨」、アメリカ芋、内藤カボチャ、栗(東京産)

⑨感想

[チームリーダー: 緑川]

ゼミ生が主体となって商品の調理、代金の授受、江戸東京野菜に関するPRまで行った点と当たり付ラベルにしてエコバックを渡したこと、他のプロジェクトと異なり既存の催し物に出展する形で参加したこと、などが特徴的なことだと思います。

このプロジェクトを通して江戸東京野菜の面白さを理解することができ、また、お客様に江戸東京野菜の面白さを発信することができ、少しは江戸東京野菜の認知度拡大に貢献できたのかなと思います。

プロジェクトを進めていく上で大変なこともありましたが、優秀な班員のおかげでキッチンカープロジェクトをまとめあげることができました。このプロジェクトで得た経験や知識を今後活かしていきたいです。

江戸東京野菜



江戸東京野菜



創作ロゴ

江戸東京野菜



江戸東京野菜



景品QRコード





2. 都市農ボランティア

① イベント名

『とうきょうの農家で学ぼうツアー』

『法政援農収穫祭』

② 実施日時

とうきょうの農家で学ぼうツアー

9月21日(13:30~15:30) 富沢ファーム

9月25日(13:40~15:40) 梨さとう園

法政援農収穫祭

10月15日(9:30~13:00) 五十嵐農園

10月16,19,22,23日(9:00~17:30) 川里農園

11月10日(9:30~13:00) 山内ぶどう園

準備:8月16日(火)に東京都農林水産振興財団との打ち合わせ

③ 場所

とうきょうの農家で学ぼうツアー

富沢ファーム 東京都三鷹市北野3-10-10

梨さとう園 東京都国立市谷保5805

法政援農収穫祭

五十嵐農園 練馬区土支田1-35-17

川里農園 小平市花小金井3-11-1

山内ぶどう園 調布市若葉町3-28-7

④ 協力者・機関

東京都農林水産振興財団、富沢ファーム、梨さとう園、五十嵐農園、川里農園、山内ぶどう園、JA東京中央会、東武トップツアーズ、

⑤ 実施概要

・「とうきょうの農家で学ぼうツアー」ではゼミ生が都市農業プロジェクトを行うに際して、実際に“都市農業を知る”ことを目的として農園を訪問し、農家の方に都市農業の実態や農園独自の取り組みについて伺ったり、農地見学、袋詰め作業などを体験させていただいた。

・「法政援農収穫祭」では東京の大学生への都市農業の普及啓発を意図し、法政内外問わず参加大学生を募集し、援農ボランティアとして、柿を磨く作業、落花生・大根・サツマイモ等の収穫と間引き、仕分け時期が過ぎたナスの片づけ、ねぎの植え付け等の作業に取り組んだ。7

⑥参加者数

のべ58人(ゼミ生32人 その他大学生26人)

⑦ゼミ生活動

- ・東京都農林水産振興財団への協力依頼と説明、農家とのスケジュール調整
- ・宣伝ポスター作成
- ・Instagramによる宣伝
- ・法政ボランティアセンターから参加募集のメール配信
- ・参加者名簿作成と保険加入案内
- ・都市農業についてのリーフレットの作成
- ・都市農業クイズの作成
- ・アンケートの作成
- ・毎回の作業後に都市農業に関するリーフレットの配布、都市農業クイズの実施、クイズ景品・参加記念の菓子配布など、ゼミ生・参加者・農家との間での交流を行った

⑧見学・作業体験させていただいた野菜

落花生、内藤カボチャ、内藤唐辛子、柿、大根、シシトウ、春菊、サツマイモ(紅はるか)、ナス、ねぎ

⑨感想

[参加者の感想(アンケート結果抜粋)]

・都市農家を身近に感じる素敵な機会だから、もっともっと精度を上げられそう。都市農家に触れるきっかけにはなるが、さらなる向上を図るには、「東京の農地面積は毎年100ha減っている。」という事実のみではなく、なぜ減少するのか、その原因は...まで解説されると、今後自分達が何をすべきか、何をできるか...まで参加者が能動的にきっかけになるのではないかな。

・クイズの景品として、お世話になった農家さんの野菜、果物、また、それらの加工品などを景品にした方が、農家さんにも利益が還元されて良いのではないかな。農家さんを商品からも知ってもらう機会にもなる。素敵なプロジェクトなので、もっと良くなると思う。

・都市農業という言葉を知りました。東京の食糧自給率が0%というのが衝撃的でした。収穫体験は小学校以来やっていなかったので、新鮮でとても楽しめました。

・都市農業に関するパンフレットや、クイズなどとてもいいな！と思う取り組みでした！ゼミの学生が出したクイズに対して、農家さんが補足してくれていてとても知識の深まる内容でした！

・前回とは違う作物に関わられて楽しかったです。今回は旬の季節ではなかったですが、果物の農作業とかやってみたいです。

[幹事:吉田・金子・関根]

当企画は全8回にわたり実施しました。初回の「法政援農収穫祭」では参加者の方からアンケートにて的確なご指摘をいただき、改善を重ねながら全イベントを終了することができました。ゼミ生、参加者の方々、農家の方、東京都農林水産振興財団など、関係者のお力添えにより非常に密度の高い活動になったと感じます。多くの参加者の方に楽しんでいただけたことに達成感を覚える一方で、今後改善すべき点や継続して取り組むべき点が見えてきたように思います。今後も本プロジェクトで得た学びを活かし、都市農業や持続的な土地利用に貢献できる取り組みを行っていきたいです。

インスタグラム

大学生限定
都市農業を体験しよう!
法政×東武トップツアーズ×JA
ボランティア募集
法政援農収穫祭
開催場所・日程
・五十嵐農園(練馬区) 10.15
・川里農園(小平市) 10.16/19/22/23
・山内ぶどう園(調布市) 11.10

五十嵐農園

先着3名

- 開催日時 10月15日(土) 9:30~13:00
- 集合場所 練馬区土支田1-35-17 敷地内自宅前
※Googleマップにて「五十嵐農園 農産物直売所」と検索ください。
- 最寄り駅 西武池袋線・石神井公園駅
都営大江戸線・光が丘駅
- 最寄りバス停 土支田八幡
- 内容 翌日のイベントに向けての収穫、出荷作業等

川里農園

各日先着8名

- 開催日時 10月16日(日)、19日(水)
22日(土)、23日(日) 9:00~17:30
- 集合場所 小平市花小金井3-11-1 敷地内看板前
- 最寄り駅 西武新宿線・花小金井駅
- 内容 サツマイモの収穫作業等
- 昼食 近くにコンビニあり、敷地内に休憩スペースを設けます。

山内ぶどう園

先着27名

- 開催日時 11月10日(木) 9:30~13:00
- 集合場所 調布市若葉町3-28-7 敷地内自宅前
- 最寄り駅 京王線・仙川駅
- 内容 未定
※参加人数によって内容が決まります。

持ち物

- 汗拭きタオル ○長靴 ○軍手 ○長袖長ズボン
- 飲み物 ○帽子 ○マスク

※雨天の場合は、カッパ(上下)もしくはレインスーツをご用意ください。

※必要に応じてタオル、帽子、汚れた軍手、作業服などを入れる袋があると良いです。

都市農業クイズ

東京で1番
収穫量が多い野菜
①トマト②小松菜
③大根

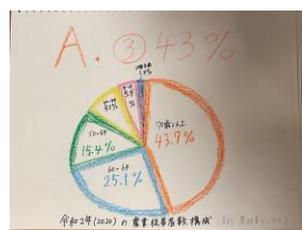
答え
②小松菜



東京の農地は
1年間に何ha減少
しているか
①10②50③100

答え
③100ha

2020年の農業従事者
のうち、70歳以上は
約何パーセントか?
①27%②35%③43%

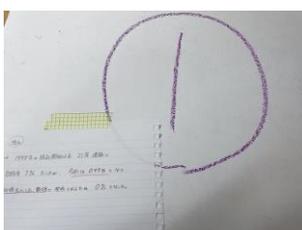


Q、東京の奥多摩
町では、多摩川の源流
近くで育てる全国3位
にもなる食料があるが
それは何か?

A. 奥多摩わさび



令和元年度、
東京の食料自給率は
何%でしょう?(カロリーベース)
①0②6③10④14⑤21
ヒント:同年日本全体では38%



東日本大震災の時に
三鷹のにある農家様へ避難者
が後援集まりました。
何人ほど集まりましたか?
①5人②10人③15人④20人
JA野中地区農業センター(2011.2019.11.29)

答え
20人!

とうきょうの農家で学ぼうツアー「富沢ファーム」



とうきょうの農家で学ぼうツアー「梨さとう園」



法政援農収穫祭「五十嵐農園」



法政援農収穫祭「川里農園」



法政援農収穫祭「山内ぶどう園」



3. メニュー考案大会

① イベント名

『メニュー考案大会：銀座芋人とのコラボ』

② 実施日時

2022年11月13日(日)

③ 場所

日本橋キッチンスタジオ

(東京都中央区日本橋小伝馬町3-10 上嘉ビル 6階)

④ 協力者・機関

NPO法人銀座ミツバチプロジェクト、株式会社果菜里屋、
JA東京中央会、東武トップツアーズ

⑤ 実施概要

・ゼミ生が5つのチームに分かれて、東京に古くから伝わる伝統野菜である江戸東京野菜を使用したメニューを考案する。

・メニューのテーマは、NPO法人銀座ミツバチプロジェクトが九州の酒造会社で製造し販売している「銀座芋人」という芋焼酎に合うおつまみとした。この焼酎の原料は都内の様々な企業や団体が屋上で栽培したサツマイモであり、高田ゼミもこれに協力して学内テラスで栽培している。

・都市と地方との交流成果である銀座芋人と、江戸東京野菜を組み合わせ、同時に発信することで、美味しさと魅力を高め合い相乗効果を目指すのを企画の狙いとした。

⑥ 参加者数

ゼミ生18名

審査員5名(銀座ミツバチプロジェクト、東武トップツアーズ、
JA東京中央会(2名)、法政大学高田ゼミ教員)

⑦ ゼミ生生活動

・都内のキッチンスタジオのレンタル

・銀座ミツバチプロジェクトへの企画協力の依頼

・株式会社果菜里屋に野菜の販売依頼

・必要な材料を購入し、予め報告を受けた材料リストを元に調味料や用具を調達

・審査員が料理を食べ採点し集計して、審査員ごとに最も美味しかった料理と、料理の平均点が高かった班を表彰

⑧使用した野菜

馬込三寸人参、後関晩生小松菜、亀戸大根、砂村一本ネギ、金町小かぶ、内藤カボチャ

⑨感想

[運営メンバー]

・シンプルに完成した料理のレベルが高い。お肉などが使われていないのに野菜だけで満足感が得られて、野菜の美味しさを改めて知ることができた。

・非常に楽しい企画になった。芋人に合うおつまみというテーマに対して、大学生のみんなの知見がとても高いレベルということがわかった。

[ゼミ生]

・江戸東京野菜と伝統のある野菜を調理し食べることに珍しさを感じ、とても楽しかった。

・他班の料理を見てもさまざまな使い方があり野菜の可能性を感じた。

・この企画を通して、東京都でこれだけ美味しくて立派な野菜が穫れるということを知ることができ、とても良い機会だった。また、野菜の味そのものがとても美味しいので、それを活かした料理を考えるのがとても楽しかった。

・東京ではあまり農業が盛んではないと思っていたが、特徴的な野菜などが多く、この企画でこれらの野菜を調理でき楽しかった。

・普段作らないものを試し、ほかの方から料理の仕方を学べたため、とても勉強になりました。

・実際に東京野菜を調理して、特質や美味しさを体感することができたほか、班のメンバーの個性が見えて、とても楽しく学ぶことができた！

・今回、東武トップツアーズ、JA東京中央会、銀座ミツバチプロジェクトと様々な団体・企業と連携した企画に参加できたことが嬉しかった。また江戸東京野菜にあまり親しみはなかったのですが、特徴を生かしたメニューがあって、自分たちの班の作品だけではなく他の班の作品も気になりました。

[審査員]

・昔からある野菜と芋人と化学反応を楽しむことができた。

・焼酎に合うおつまみというコンセプトに驚いた。主人公が芋焼酎というのが面白い。若い人たちに東京の伝統野菜に親しんでいただけたということが嬉しく思う。

関連イベント

(1)『Imolynpic2022授賞式in東京』への参加

日時:2022年11月24日(木)18:30~20:30

場所:東京都中央区銀座7丁目4-12銀座メディカルビル9階

イベント概要:

銀座ミツバチプロジェクト主催のイベント。同団体に提供しているその年に採れたサツマイモのサイズを競うイベントで、その表彰式に参加し、メニュー考案大会をはじめとしたゼミの都市農業プロジェクトの取り組みについて紹介した。

当日は考案されたメニューの中から2品実際にお出ししていただき、表彰式の参加者の皆様に食べていただいた。

(2)『「農」との出会いin池袋』への参加

日時:2022年11月23日(水)

場所:池袋駅地下1階マルチスクエア

イベント概要:東武トップツアーズ株式会社主催のイベントで、インタビュー形式でメニュー考案大会を含めた都市農業プロジェクトの内容について来場者の方に紹介した。

その他

料理のレシピについて、InstagramによるSNS配信を行った。

全体感想

[チームリーダー:小杉]

当企画は、初期段階では他校の料理サークルをメインにイベントに参加してもらう予定でしたが、なかなか交渉がうまくいかず、このような形で実施することになりました。野菜の手配やスタジオのレンタルなども予定通りに進まず、一時は企画を実施することも危ぶまれましたが、班員だけでなく他の班の方々にもアイデアを出していただいたり、企画に参加していただいたりしたおかげでなんとか無事イベントを開催することができました。

江戸東京野菜の美味しさ、調理法の幅広さ、芋人の飲みやすさ、イベントを通して多くの学びがありました。この学びをこれからも生かし、都市農業の魅力を広め続けることができればと思っています。

メニュー考案大会写真





「農」との出会いin池袋の写真



4. アクアポニックス

① イベント名

『アクアポニックスの実践』

② 実施日時

2022年9月～

事例視察(株式会社AGRIKO):2022年8月3日(水)

③ 場所

法政大学人間環境学部 高田研究室内

(東京都千代田区富士見2-17-1)

④ 実施概要

- ・Z世代である我々がアクアポニックスという農業に挑戦する様子を発信し、同じZ世代に都市農地や農業に興味を持ってもらうことを目的として活動を開始した。
- ・必要な設備を組み立てる段階から開始し、ネット等での情報収集をもとにホームセンター等で資材を集め、植物の栽培槽と魚の水槽を一つにまとめた装置を作製した。
- ・都市農業プロジェクトの企画趣旨と難易度を考慮し、野菜と魚には「ごせき晩生小松菜」と金魚を採用し、大学内の研究室に設置した装置で種まきから食べることのできる大きさまで育てた。
- ・Z世代への発信を目的としてInstagramにアカウントを開設し、装置の組み立てや小松菜と金魚の生育状態など、活動の様子を投稿した。
- ・プロジェクト実施中は栽培ノウハウを学ぶため、アクアポニックスに関する勉強会や企業様の見学などを随時行い、実施中や最終展示、SNSでの発信に向けた知識の蓄積に努めた。

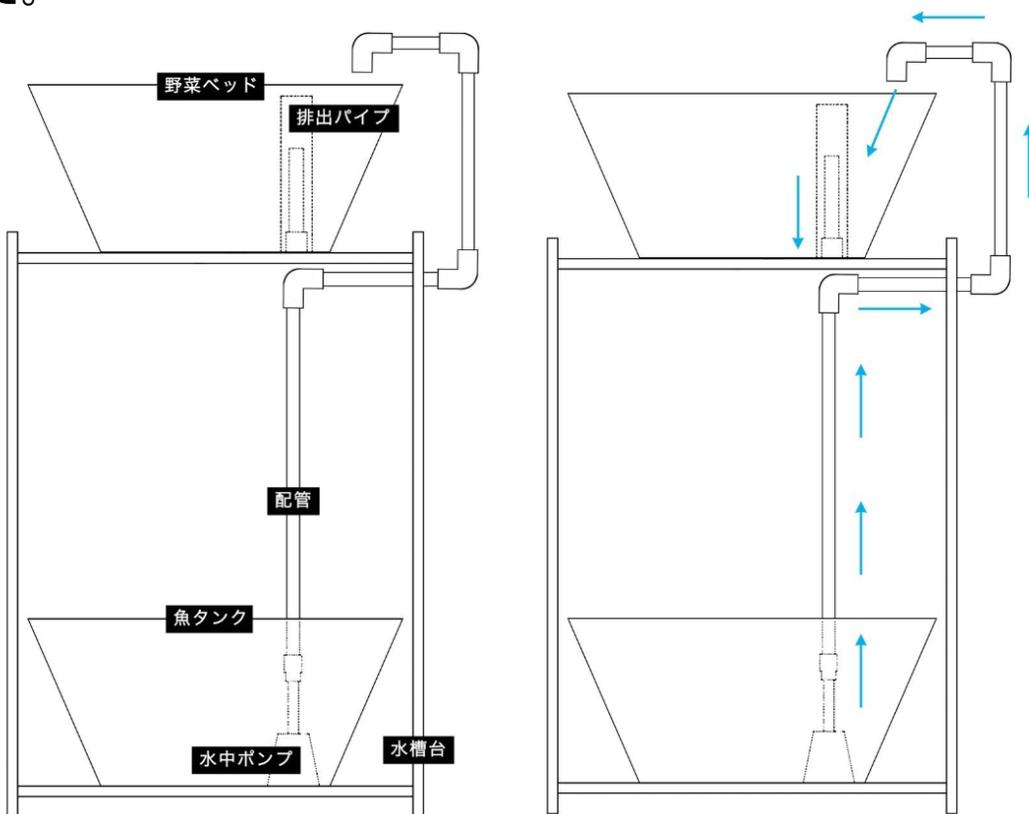
⑤ ゼミ生活動

- ・基礎的な学習、製作・組み立て・設置
- ・金魚と作物の育成のための必要な資材の購入(補足ライト、自動給餌器、カルキ抜き薬剤、など)
- ・定期的な観察とメンテナンス(健康状態の確認と対応、水質のチェックなど)
- ・情報の発信(Instagram)、スカイツリーでの現物展示
- ・小松菜の収穫

⑥感想

[チームリーダー:遠井]

通常の農業とは見た目カタチの異なるアクアポニックスの経験を通し、私自身も農業に対し興味を持つようになりました。スカイツリーでの最終展示では、多くの人がアクアポニックスに興味を示していたことも踏まえ、農業に興味を持ってもらうための入り口としての役割が、新たな形の農業には期待できるのではないかと感じました。



基本構造 (<https://aquaponics.co.jp/blog/diy-manual/>より)

アクアポニックス検討と製作



アクアポニックスの実験



5. ポップアップイベント

① イベント名

『ポップアップイベント「感じる都市農業」』

② 実施日時

2022年12月10日(土)

試作会: 2022年11月11日(金)、11月18日(金)

③ 場所

BPM(東京都世田谷区池尻2丁目31-24信田ビル2F)

試作会: バリアンスペース水道橋

(東京都千代田区神田三崎町2丁目22-1)

④ 協力者・機関

イベントスペース提供: NEW STANDARD株式会社

食材提供: 無肥料自然栽培農家オギプロファーム

JA東京中央会、東武トップツアーズ

⑤ 実施概要

- ・都市農業の中でも江戸東京野菜についてフォーカスし、Z世代にPRすることを目的としたイベントを企画した。
- ・交配種の野菜が市場に多く流通している中で、原種である江戸東京野菜はその作りずらさや、個性的な味により生産者が激減している状況にあり、そのことも伝えられる内容とした。
- ・伝統的な味わいを残すべく今回のイベントでは、ゼミ生で江戸東京野菜を用いたレシピを考案し来場者に提供した。
- ・また、農家さんから仕入れた江戸東京野菜を説明を交えながら産直販売する企画も行った。
- ・さらに、江戸東京野菜以外にも、都市農業に関するクイズパネルを作成・設置し、ゼミ生が来場者に解説を実施した。
- ・イベントでは、参加者がくつろげる空間と雰囲気づくりに留意し、参加者どおしの交流も促されることに心掛けた。

⑥ 来場者数

50名(通りがかりの人、近郊の大学生など)

⑦ゼミ生活動

- ・江戸東京野菜を用いたレシピ作り
- ・都市農業に関するクイズパネルを作成
- ・江戸東京野菜の説明資料を作成
- ・NEW STANDARD株式会社とのミーティング
- ・無肥料自然栽培農家オギプロファームへの野菜提供のお願い
- ・チラシを作成しInstagramやメール等による参加の呼び掛け
- ・当日の調理と提供、野菜の販売、くつろぎスペースの演出など

⑧使用した野菜

高倉ダイコン、伝統大蔵ダイコン、亀戸ダイコン、
ごせき晩生小松菜、シントリ菜、東京べか菜、品川カブ、
金町コカブ、青茎三河島菜、滝野川大長ニンジン

⑨感想

[チームリーダー: 安原]

江戸東京野菜というものをこのプロジェクトが始まるまで知らなかったが、未来に残していくべき素晴らしいものを企画を通してゼミ生自らが学ぶ事ができた。そして実際に味わい、それに合わせた味付けを考え、調理し、提供するという一連の流れを通して江戸東京野菜への理解をより深くするとともに、来場してくれた人々に江戸東京野菜の素晴らしさを伝える事ができた事がこの企画にとって非常に大きな価値であった。

また、江戸東京野菜の仕入れ先であるオギプロファームの福島さんの江戸東京野菜に対する熱い思いに感銘を受けた。このプロジェクトで終わってしまうのではなく、江戸東京野菜についての関心を今後も持ち、後世に繋いでいく活動に参加していきたい。

案内チラシ

法政大学 人間環境学部 高田ゼミプレゼンツ

感じる 都市農業

2022年12月10(土)12:00~18:00

JA東京中央会 & 東武トップツアーズ協賛

江戸
東京
野菜



江戸
東京
野菜



江戸
東京
野菜



江戸
東京
野菜



おたのしみ1

..... ❖

高田ゼミプレゼンツ
江戸東京野菜を使っ
たオリジナル料理を
販売

おたのしみ2

..... ❖

オリジナルクイズや
都市農業をテーマに
した雑誌を展示

おたのしみ3

..... ❖

農家さんから直送！
新鮮江戸野菜を会場
限定でご提供
この機会にぜひ！！



BPM

池尻大橋駅から徒歩30秒。
東京都世田谷区池尻2丁目
31-24 信田ビル2F



イベント当日の様子



江戸東京野菜を使った
オリジナル料理



6. 雑誌づくり

① イベント名

『雑誌「都市農業」の作成』

② 実施日時

2022年10月～12月

農家取材：2022年11月8日（火）、11日（金）、18日（金）、22日（火）

③ 場所

取材場所：

榎戸園（東京都稲城市）11/8：主に梨の栽培について取材

足立区都市農業公園11/11：農業公園について取材

うど農家の宮野さん（東京都立川市）11/18

：主に東京うどについて取材

岸野農園（東京都小平市）11/22：主に江戸東京野菜について取材

④ 協力者・機関

取材先の農家の方々（榎戸園、岸野農園、うど農家の宮野さん）

JA東京中央会、東武トップツアーズ

⑤ 参加学生数

榎戸園6名、足立区農業公園8名、宮野さん4名、岸野農園4名

⑥ 実施概要

・本企画では実際に東京で農業を行っている方々にインタビューをし、農業の魅力や農家さんの思いを記事にまとめた。

・都市農業が持つ多面的な機能を記事に載せるだけでなく、実際にゼミ生が農地に足を運び体験することで都市農業についての理解や関心を深めるきっかけとなった。

・記事は最終成果展示が行われたスカイツリーで展示され、冊子を手にとってもらったり、QRコードで読めるようにするなどして多くの人に読んでもらうことができた。

⑦ ゼミ生活動

・雑誌構成の企画づくり

・JA東京中央会の紹介などにより取材先の検討と選定

・取材の実施

・取材成果の取りまとめと原稿作成

・雑誌の編集作業

⑦感想

[チームリーダー:遠藤航大]

今回の雑誌作りは多くの方々のご協力のもと作成しました。農家の皆様においては、農業素人の大学生の取材を快く受け入れてくださり本当にありがとうございました。都市農業の抱える問題や農家さんの苦労は私の想像を超えるものでしたが、それよりも農業の持つ可能性、魅力に魅了されました。これは私だけではなく他のゼミ生も同じ気持ちだと思います。そんな農業の魅力を少しでも多くの人に届けられたなら嬉しいです。

また、雑誌という形あるものをゼミ生の力を合わせて作り上げたことは、非常に価値のあるものだったと感じます。JA様、東武トップツアーズ様、そして大学関係者の方々のご協力のもと、精一杯の力を持って今回のプロジェクトに臨めたことが本当に幸せでした。

Z世代に都市農業をPRすべく「感じる都市農業」をテーマに1年間活動に取り組んできました。苦労したことも多々ありましたが、全力で取り組めたことに悔いはありません。今回の雑誌作りが終わっても、農業との関わりは切れるわけではありません。今までとは農業に対する見え方、考え方が大きく変化しました。今後も自分なりの形で都市農業に関われたらと思います。

雑誌「都市農業」の表紙

都市農業

法政大学 人間環境学部 高田ゼミ

Z世代が探る農業の可能性

7. 散策マップづくり

① イベント名

『都市農業の魅力を伝える街歩きマップづくり』

② 実施日時

2022年8月～11月

事前調査：夏休み期間中(8月3日～9月17日)※各自

現地調査：2022年10月25日(火)、26日(水)、
11月6日(日)、11月9日(水) ※グループ単位

③ 場所

事前調査：各自の自宅周辺など任意の場所

グループ調査：東京都町田市鶴川、立川市駅南地域、
東京都葛飾区柴又、練馬区石神井公園
神奈川県藤沢市

④ 実施概要

- ・都市農業の魅力発掘のひとつとして、周辺のまちと一体とした視点で“逍遥”を楽しむ散策マップづくりを行った。
- ・まず、都市農業の基礎的なレクチャーと、夏休みに各自で自宅近郊の農地を写真に撮って感想を述べることを行った。
- ・次に居住地域が近いメンバーでグループを形成して、各自で対象地域・日程・テーマを話し合って企画・計画し、散策し取材した。
- ・テーマ検討に当たっては「都市農業×〇〇」という任意のテーマと掛け合わせることで魅力を発揮することに留意した。
- ・フィールドワークにおいては、農地のみならず、周辺のまちとの関わり、景観、立ち寄れるお店、販売店などの住民との関わり等も考慮して実施した。
- ・その成果を取りまとめて発表し、その際東武トップツアーズとJA東京中央会にもオンラインで聞いていただきコメントをいただいた。

⑤ ゼミ生活動

- ・自宅近郊の農地で事前調査を行う
- ・グループ単位でフィールドワークを企画・計画
- ・フィールドワークの実施
- ・結果をプレゼンテーションに取りまとめて発表

⑥感想

[学生振り返りから]

・「都市農業×〇〇」でのマップ作りでそれぞれの班の考える〇〇が個性的で、自分たちの班では思いつかなかった発想が見られた。同じテーマでも班ごとにアレンジを加えられる余地があると、自由度が高く、それを通して都市環境への理解を深めることができたと同時に、答えのないものから意見をまとめて発表するという社会人になっても必要になるスキルを身に付けられる絶好のテーマであったと感じた。

・グループでフィールドワーク地を決めて実際に見に行ったことやそこで農産物の直売所の方にお話を伺ったことで新たな視点を得られた。都市農業では、いくつかの野菜が育てられて、それが近くの直売所で売られています。決して利益重視で都市農業を営んでいるわけではないなど、利益が一番に来ないほど、都市農地は重要な役割を担っており、かつSDGsにも深く関連してくるという視点を得ることができた。

・どこに行くか何をテーマにして活動するかという点から考えていくことが非常に興味深く印象に残りました。また、自分たちの作ったスライドを企業の方々にも聞いてもらうという貴重な経験をすることができました。

・私の地元でも寺島なすという茄子の栽培に力を入れています。実際に柴又に赴いて都市農業に携わっている人に話をお伺いできて、都市農業の様々な意義を知ることができたとともに、都市で農業を行い周辺の学校と協力することで、環境教育や、農業への関心理解が高まり、地方での農業従事者が増えることや、グリーンツーリズムの発展があるのではないかと考えました。

・私はこの調査で自分の住んでいる藤沢市を調査しました。自分の住んでいる地域なのにも関わらず、知らないお店や農地が多くあり驚きました。この調査で行ったお店にもう一度行きたいと思いました。

・具体的な縛りがなかったので自分たちで一からテーマを決めて、場所を決めて散歩したルートをプレゼンをするというのは難しかったです。だからこそ自分たち独自のマップが作れた時は達成感がありました。企業の方に話を聞いていただくことも初めての経験だったのでためになりました。

・一年間の活動で最も印象に残りました。今回私は行ったことのない湘南台という場所にグループの人と調査に行きましたが、都市の中にこんなにも多くの自然や農地があり、農家のレストランがあることを知り、とても驚きました。私はこのゼミで学ぶ前は都市と聞くと交通量が多く、汚れていて環境への悪影響が大きいイメージを持っていました。しかし、都市農地を通して都市の中にも緑が多く存在していることを知ることができ、都市に対する考えを変えることができたのでとてもよかったです。

・都市農業という一つのキーワードから、各班でそれぞれテーマを作っていくところが良かった。テーマを自分たちで明確にすることで、フィールドワークもしっかりとした目的を持って行えたように思いました。この活動では、もともとある答えを当てはめるのではなく、各班がそれぞれオリジナリティのある内容を作りだせていたのがとても印象的でしたし、個人的にもとても勉強になりました。

・都市農業の魅力や、思っていた以上に都市農業に関わるお店が多いことなどを実際に自分の目で確かめられたことがとても良かったと感じています。

8. 成果展示atスカイツリー

①イベント名

『都市農業の魅力発信のための産官学連携成果報告展示』

②実施日時

2022年12月17日(土)～18日(日)

事前内見: 2022年11月16日(水)

③場所

東京スカイツリー(東京都墨田区押上一丁目1番2号)

地下3階エントランス スペース

④協力者・機関

東武タウンソラマチ株式会社

東武トップツアーズ株式会社、JA東京中央会

⑤実施概要

・今年度行ってきた、都市農業の魅力発信のための活動の成果を不特定多数の多くの方に対して展示する。

・狙いは都市農業の魅力をより多くの人に発信することで、主要ターゲットは「Z世代」であるが、スカイツリーの週末来場者全体に向けて以下のことを行った。

○パネル展示と説明(資料8-2)

○アクアポニックスの実物展示と説明

○冊子の配布

○アンケートの実施と協力いただいた方へ記念品を差し上げる

(JA東京中央会の江戸東京野菜エコバック)

・当日のスケジュールと展示レイアウト⇒資料8-1

⑥アンケート回答数と来場者概数

アンケート回答者数: 251名

来場者概数: 1時間当たり50人として、18時間で900～1000人

⑦ゼミ生活動

・事前の内見と担当者との打ち合わせ、各種手続き、連絡調整

・展示物の製作

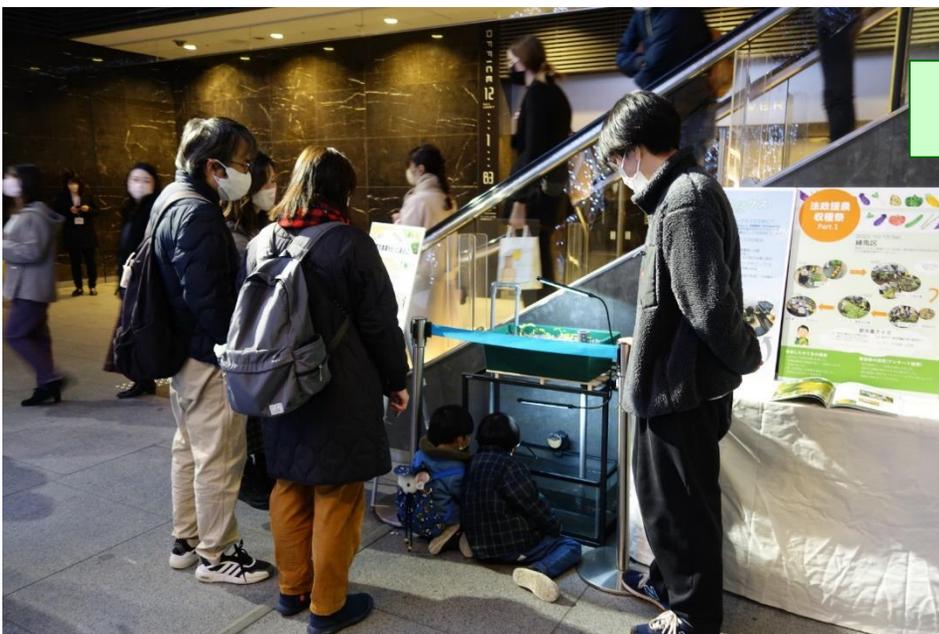
・当日のセッティングと撤収の作業

・来訪者に対する説明と冊子配布、アンケートの依頼

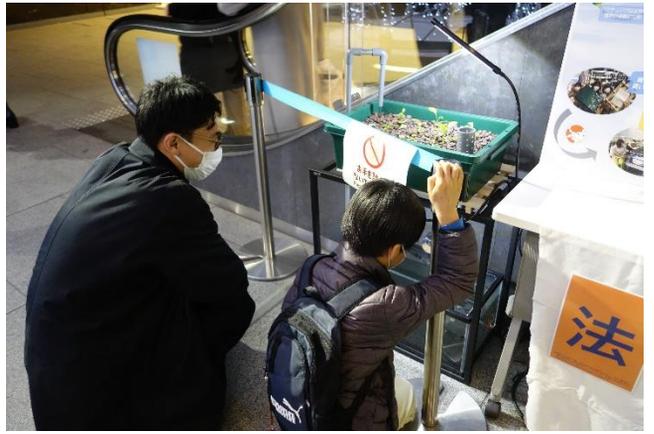
(シフトは資料8-1)

・周辺来場者に対する呼び込み

イベント当日の写真



12月17日



12月18日

9. 学生の感想

- ・自身も今まで伝統野菜についてあまり知らなかったのので、プロジェクトを通じて理解を深められた。また、キッチンカーやスカイツリー展示での集客、お料理大会での参加者集めを通じて、世間の都市農業への興味関心はまだまだ薄く、今後浸透させていくまでの道のりの長さを感じた。
- ・東京の野菜を使ったスムージーを売ることによって、都市農業について知識を少しでも広げることができたと思います。
- ・キッチンカーを出すのは貴重な体験で楽しかった。都市農業に対する理解も深まりました。
- ・実のところ、大学に入学して学ぶまでは、都市農業という言葉を知りませんでした。確かにぼんやりと東京などの都市で農業をやっていることは想像できていたのですが、一定の地域に密集しているだろうと思っている程度でした。しかし、都市の幅広い地域で農業が行われていること、農家様とご協力させていただき農地の防災の役割などを体験しながら都市農業を学ぶことができ、都市農業に対する考えが大きく変わりました。そのうえで、その知識を広めることに貢献できたことを非常に嬉しく思っています。
- ・都市農業プロジェクトに参加して、野菜が私たちの生活を支えていることを実感するとともに、普段出会うことのない野菜に関わる人と交流することができ有意義な時間を過ごすことができました。
- ・学校内の活動で終わらず、考えたことを実際に行えるというのがすごくいい経験になった。また、実際に行くための過程が想像よりも多く大変だったがやりがいがあり楽しかった。
- ・自分達でプロジェクトを企画し進めたことによって、より一層都市農業への関心を高めることができました。ボランティア班だったので、自分の手で実際に農作業をしたり、農家さんの生の声を聞くことができたのも大きかったです。私の場合は、将来自分も農業をやってみたいなと思うくらい興味を持ってました！企画段階から自分達の手で進めたので、慣れないことばかりで大変さもありましたが、その分得られるものもあったと思います。中心になって進めてくれた3年生に感謝です！

・都市農業プロジェクトを通して、私たち自身も他の人にも都市農業のことについて知ってもらうことができ、都市農業に関してだけではなく様々な側面で成長できたと感じる。都市農業についての関心をここで終わらせないようこれからも、日々の生活からアンテナを立てて考えていきたい。

・自分は都市農業に関して以前から関心があり、ゼミを通すことで考える機会は多かった分、関心がない人にもどう知ってもらえるのか、伝え方に工夫が必要だった点が難しかったです。私たちの大学生らしさを出しながらも、自身の持っている都市農業の知識や印象がさらに深まるとても良い経験になりました。

・私はメニュー考案班でした。お料理大会を実施するまでの道のりは、簡単ではなく、参加者が集まらない、会場が見つからない、江戸東京野菜が手に入らないなどたくさんの困難がありました。何度もあきらめそうになりましたが、リーダーである小杉さんを中心にメニュー考案班のメンバー、大会に参加してくれたゼミ生、審査員をしてくださった企業の皆様、高田先生のおかげで、江戸東京野菜の普及につながるすてきな大会になりました。どの班のメニューも斬新で面白く、ぜひ多くの皆様に試していただきたいです。この1年でゼミとしての都市農業の活動は終わってしまいましたが、この企画を通して江戸東京野菜、都市農業について学んだ事を活かし、都市農業の普及につなげる活動をしたいと感じました。

・都市農業を体験し、その経験や学んだことを広めることを実践的に行うことができたので、とても楽しかった。東京野菜の生産から加工販売、食卓まで全てに携わることで農業が果たす役割への理解が深まり、自身の日常生活の中でも、様々なところで活かされている。プロジェクトは終わったが、これからも自分の方法で都市農業に関心を集め、関わっていきたい。

・私はそもそも都市農業というものを知らなかったが、今回の長い期間の活動によって都市農業の概要や現状、栽培している江戸東京野菜などを知ることができた良い経験だった。多くの農家さんから聞いた都市農業の話や活動から学んだことなどを、自分から伝えていこうと思った。

・個人的にやってみたいと思っていたキッチンカーを通して、自分自身が都市農業や江戸東京野菜について知るとともに、他者に対して魅力発信を行えたことに大変やりがいを感じる事ができた。

・今回、都市農業プロジェクトに参加して江戸東京野菜について「学ぶ」、「知る」だけでなく、学外の方に「広める」という貴重な経験ができたことを嬉しく思います。実食できる機会も多く頂き、それぞれの野菜を食べる度にそのもの自体の甘みや旨みに驚きました。田舎の野菜こそ美味しく、都会の野菜は貧相という先入観があったが、それが覆り、これからも江戸東京野菜を食べたいと思うし、今後も広める活動に参加できればと思います。亀戸大根と馬込三寸人参は今回特にお気に入りになった野菜です！

・都市農業プロジェクトで一番印象に残っていることは、キッチンカーのイベントだ。参加者としても参加してみて、東京にはさまざまな野菜があることを学べた。また、人生で初めてキッチンカーの運営をして、色々失敗してしまっただが、そこからさまざまなことを学べたのがよかった。その中でも、提供する食品はしっかり味見して、作り方にも妥協しないことが消費者に喜んで貰うことに繋がることを一番学んだ。全体的に自分の経験の糧になることが多く、良い機会だったと思う。

・都市農業プロジェクトに参加するまで都市農業についてほとんど知りませんでした。このプロジェクトに参加して、都市農業のメリットについて知ったり、活動を通して実感できたりしたので良かったです。特に、農業ボランティアでは農業従事者の高齢化が進んでいる課題を目の当たりにしましたが、一方で農業に興味のある若者も想像以上に多くいることがわかったので、そこを繋げていくことが大切だと感じ、そのためにもZ世代に都市農業を知ってもらうこのプロジェクトは非常に価値のあるものになったと思いました。

・都市農業プロジェクトで、貴重な体験をすることができました。農業体験をして、農家の方々の苦勞と農業に対する熱い思いを知ることができました。また、農家の方、キッチンカーのお客さんなど都市農業を通して人の温かさにも触れることができました。

・これまでは野菜メインで食事を作ろうとしませんでした。今回のプロジェクトを通じて食卓の上をさらに豊富にしようと思いました。

・プロジェクトの発案時から独創的なアイデアに触れられすごく刺激的だった。途中、思い通りにいかない事が多くあり、プロジェクトを運営する上での難しさを痛感した。しかし、最後までやり遂げた時の達成感がすごくとても良い経験になった。

- ・都市農業プロジェクトに参加し、とても有意義な活動であったと感じる。私はツーリズムであったり農業や水産業といった第一産業にゼミを通して関わってみたいと考えていた。そして都市農業はそのような自分の希望に近いプロジェクトであったからである。
- ・都市農業に関するイメージとして、都市農業プロジェクトを始める前は、実際の農業体験や野菜の店頭販売を想像していた。だが都市農業を"広める"ことにフォーカスを置くとメニュー考案大会のように農業や産業の色が濃くない、間接的な意味合いが含まれた活動が生まれることは新たな個人的な知見となった。
- ・活動を通じて苦労も経験出来た。それは企画が魅力であっても現実性を加味すると実現しないことがあることである。スカイツリーの上で都市農業を行う模擬高原野菜があったが、場所の確保などが難しく頓挫することがあった。このように現実の可能な範囲内で魅力的な案を考える事の難しさを感じた。
- ・都市農業プロジェクトを通じて、広めたいと思ったことは、人々に普段の食、食材の詳細について関心を持って欲しいと思ったことである。普段買い物をする人間以外はその食材について関心がないと思う。実際、私もこのプロジェクトに参加する前は食材に興味はなかった。だが私自身はこのプロジェクトに参加して以降東京の野菜を街で目にすると関心を持つようになった。このように知見一つで興味の幅は広まる。私のように興味を持つ人が増えるためにも小学校などで食育に関連して都市農業を学ぶ機会などが増えて欲しいと思う。またこのような活動の一つが日本の農業を活性化させて欲しいと感じる。
- ・現在日本の食糧自給率は38%である。地方の活性化も含め、地方の農業や産業に焦点があたるが、都市の農業から活性化させる手もあるのではないかと思う。人々に農業や自然についての関心が少しでも向けばいいなと都市農業を通じて感じた。
- ・キッチンカーイベントにメインで参加しましたが、オリジナルメニューの創作から丸の内での販売にまで携わることができ、とても楽しく貴重な経験でした。東京産野菜の美味しさや、家のすぐ近くで大根が採れることなど、イベントを通じて東京の野菜や農業の面白さを新しく学ぶことも多く、またそうした都市農業の魅力をスムーズに野菜の紹介を通じて多くの方に知っていただくことができたかなと思います。

・まず展示についてです。最初はこんな人が多いところで声かけて集客するなんて恥ずかしいし大体来てくれる訳ないと思っていましたが、熱心に聞いてくれる人もいてくれることを知り、誰かのために何かをするってことは良いことだなーと思いました。

・キッチンカープロジェクトのリーダーとして活動しました。班員が優秀な人たちだったおかげで大盛況で終わることができました展示の時も「実際に飲みたかった」や「また出展する予定はないの？」という声をもらったのでまた機会があったらやってみたいです。疲れたけどやりがいあったなあ、楽しかった！

・都市の野菜を自分たちも始めて知って、色んな可能性を感じました。東京の野菜ならではの個性や都市でも伝統を守ることの大切さを知ることが出来ました